

## 2014 年度 日本気象学会東北支部第 2 回理事会 議事録

日時：2015 年 3 月 12 日（木）15 時 30 分～17 時 45 分

場所：仙台管区気象台第 3 会議室

出席：高瀬、青木、岩崎、佐伯、境田、葦澤、渡辺、高橋、和田（代理出席）（以上理事）、小室（会計監査）、金濱、折笠（以上幹事）

欠席：杉山理事、児玉理事、山崎幹事

司会：渡辺理事

### 議題 1. 支部長挨拶

今回の支部理事会においては、来年度の事業計画、秋季大会のあり方という 2 つの議題を検討することを主に予定しており、活発な議論をお願いしたい。

### 議題 2. 役員の交代

- ・議案参照

### 議題 3. 2014 年度事業報告

- ・議案参照

### 議題 4. 2014 年度会計報告

#### [支部一般会計]

- ・支部だよりは 2 号のみ発行。試行として第 80 号の封入作業を外注した。
- ・支部気象講演会において、ホール利用料が比較的安かった点、垂れ幕印刷を自前で行った点から決算額は少なくなった。
- ・支部気象研究会の旅費補助は一件も無かった。
- ・支部理事会において今年度第 2 回旅費の反映はまだ。
- ・（各支部での比較では当支部は少ない方だが）繰越額はあまり多くなならないよう計画を立てる必要がある。本部に返金することが懸念されるため。
- ・今年度は上述の理由から繰越増となった。来年度計画の中で検討することとしたい。

#### [支部強化基金による活動会計]

- ・残金が出たら本部へ返すことになるが、約 4 千円不足となり支部一般会計から補助した。

### 議題 5. 2014 年度会計監査報告

議案を承認した。

## 議題6. 2015年度事業計画案

- ・支部気象研究会について、旅費補助は今年度と同様の方針で進めることで了承された。
- ・学生は指導教官が会員であれば対象に入る。気象台職員（他管区含む）も入る。
- ・支部だよりについて、次回理事会にて編集担当の理事を決める。また支部活動の周知事項を支部だよりで知らせるため、発行時期・回数も検討する。編集・印刷・発送まで外注した場合、どの程度の経費となるか、次回理事会前の予算検討に間に合うよう業者見積りをとり検討資料に用いる。
- ・2015年度第1回理事会は、4月20日の週を予定していることで進める。
- ・奨励賞推薦について、三上委員長（理事）からの依頼により、東北支部での推薦者を探したが今年度は候補無し。その後、各委員への作業依頼は無かった。学校の先生なども対象に幅広く募っているが、推薦に向けた情報があつたら共有をお願いしたい。

## 議題7. 2015年度予算案

- ・支部だよりの予算は無理して抑える必要はないのでは。但し、編集担当者の負担を考慮し、単純に回数を増やすのではなく、外注の見積額等から検討するのがよい。
- ・支部研究会の旅費補助のアナウンスを早めに行うのがよい。学生には会員である条件を利用しながら、入会を働きかけると更によいのでは。

## 議題8. その他

### （1）支部長会議での検討課題「秋季大会のあり方」について

- ・大会規模（日数及び会場数）、支部の負担減の方策について、本部より意見を求められている。
- ・予算を増やすための措置も必要かもしれないが、そもそも議論すべき変数が多すぎ、優先順位を整理してから議論しないと収束しない。
- ・優先事項の順として、日数もしくは会場数の検討→（これだけで効果出ない場合）→（時間帯・セッション内容等の工夫）→講演のセレクトの検討、となるを考える。
- ・まず、発表者側と運営者側の意見をまず分ける必要がある。
- ・東北支部としては、運営者側の意見を中心にまとめることとする。
- ・3日間5会場案の方が、運営負荷と会場予約の面から運営者側として望ましい（現実的）と考える。
- ・仙台では3日間5～6会場で行うことは可能である。  
（仙台国際センターしか候補は無いが、4日間連続して予約を取るのは困難。）
- ・仮に発表会場数を増やしても、発表時間が大幅に伸びないのでは。
- ・最低限の発表時間確保を優先すべきとすると、次は発表件数をセレクトする段階となる。
- ・スペシャルセッション限定にするのも一案、その場合は、各セッションのオーガナイザー側で予め定めた枠内に収まるようセレクトを任せるのも考えられる。
- ・朝や夕方方の時間をもっと活用するのも一案、それぞれ1時間程度延ばして発表時間を確保することも可能ではないか。

- ・シンポジウムの時間帯に講演を併行して行うことも考えられる。
- ・年1回の大会にするというのはどうか。→ 抜本的な変更案も考えられるが、今回の検討範囲としない。
- ・支部及び実行委員会側の負担として、受付や事務局の業務が大きなものとなっている。会費受領・現金管理は、学生へお願いするにはやや無理があり气象台職員等が中心となって行っている。日数延長の案では、この負担が大きくなる。

## (2) 地方理事の推薦について

- ・異議なし。
- ・このあと名越教授に理事を打診する。次回理事会で出席をお願いし、担当業務を決める。

## (3) 支部気象講演会の持ち回り開催について

- ・イベント一例として毎年8月、仙台市勾当台公園で約5万人が集うNEXCO東日本東北支社主催のイベントがあり、気象協会東北支局ではブース展示で参画している。気象学会として出し物アイデアの協力を頂けると助かる。一度、事務局サイドで説明に伺いたい。
- ・气象台側の負担がかなりかかっていることを知らなかった。
- ・各地方气象台で気象学会員は1～数名しかいない点、気象講演会が休日に行われる点から管理職等が中心になって関与しているのが実情である。
- ・例年60～70名程度の参加があり、県や自治体等にも声をかけ、学会との関係が定着していた感もあったと思う。
- ・气象台ではこの講演会の他、防災気象講演会、防災訓練等のイベントに毎年継続して取り組んでいることが県や自治体との連携を強化している一因と考えている。
- ・当日の動員・会場支援、前日までの周知広報が主な負担となっている。予報士会など他機関との連携をより強化し、当日スタッフの協力が得られれば、气象台側の負担が軽減される可能性がある。また、一緒にイベントを実施することによって、サイエンスへの関心を互いに高めるメリットもあり、講演会のような機会を続ける意義はあると思う。
- ・ただ、各県でどの機関がリーダーシップをとってイベントを実施するかはネック。
- ・すぐにこの場で結論を出さず、今回の議論をもとにどのような対処、実施が可能か、各県持ち回り開催見直しを考えるきっかけとしたい。次は宮城県で気象講演会を行う順番であり、次年度も懸案事項として引き継ぐ。

## (4) 日本気象学会東北支部規則・細則の改正について

議案を承認した。